

2025年度農薬に頼らないコース管理に向けた取組み計画

1. 2025年度基本方針

当ゴルフ場は、昨年度に引き続きコース管理のための、気象・気温・土質・芝の状況等のデータを蓄積し、活用することで、芝の病気、害虫および雑草の発生傾向を把握し、極力農薬に頼らない方法での芝の生育環境の向上に資する施策（施肥や散水等による芝育成環境を維持・改善、芝刈の工夫等）により、病気、害虫および雑草の発生率低減に取り組んでまいります。

2. 実施計画

(1) 農薬使用量低減への取組み

- イ. 水質汚染防止対策指針中の農薬使用基準に従い、原則、病虫害等の被害拡大の兆候が見られた場合または発生する可能性が高い場合に農薬を使用し、使用量低減に取り組みます。
- ロ. 実際の農薬使用実績およびコース状況に鑑み、以降の農薬使用量を極力低減するため、使用計画を随時変更いたします。なお、変更した際には、随時当社HPにて公開いたします。
- ハ. 農薬使用計画の策定にあたっては、コースの特性、気候データ、病虫害等の発生傾向を踏まえ、効果の最大化と使用量の低減のため、従来の方法に固執せず、薬剤の選定、散布時期や散布方法を試行します。

(2) 病虫害等の発生率低減

- イ. 過年度に実施したデータの収集および農薬に頼らないコース管理の取組みについて、2025年度も継続して実施するとともに、その効果を観察・検証いたします。
- ロ. 過去に行ったコース内の排水改良工事の効果を観察・検証し、必要に応じて他の場所においても実施を検討します。
- ハ. 更新作業を、年4回を目安に実施します。
- ニ. グリーン芝の新品種「777」の播種を継続します。一昨年より圃場にて、試験的にティ芝の新品種「ゼオンゾイシア」を育成しており、引き続き育成・観察してまいります。
- ホ. 薄目砂の散布を積極的に実施します。
- ヘ. 散水量を極力抑え、雑草の繁茂を監視します。
- ト. 土壌成分検査の結果を活用し、施肥計画の参考とします。
- チ. サッチ分解効果が見込める肥料を使用します。
- リ. 簡易排水工事をティグラウンドおよびフェアウェイ、ラフの排水不良箇所に順次実施します。
- ヌ. セミナー等への積極的な参加により、最新のコース管理手法や新技術の取得に取り組めます。
- ル. 行政、民間の主催する各種研修に参加する他、近隣ゴルフ場との情報交換を行い、環境の似たゴルフ場における取組みや、病虫害の発生状況等の情報収集に努めます。

ヲ．陽当たり、風通しを良好に保つため、コースの景観等も考慮して間伐をします。

【参考】農薬に頼らないコース管理への取組みのための体制づくり

(1) データの蓄積

- イ．病虫害等の発生状況の記録を蓄積することで、発生傾向を把握し、以降の農薬に頼らないコース管理に向けた計画立案に役立っています。
- ロ．土壌成分等の調査を実施し、病虫害等の発生との因果関係を把握していきます。

(2) 従業員への意識醸成，教育

- イ．水質汚染防止対策指針中の農薬使用基準の内容を踏まえた業務マニュアルを作成し、従業員への周知徹底を図ります。
- ロ．長野デューンズゴルフ運営会社内の会議で、2024年度の取組み結果、および2025年度の取組み計画について情報を共有するなど、経営課題としての課題意識を高めてまいります。
- ハ．農薬メーカー等が実施するコース管理に関するセミナー等に積極的に出席します。
- ニ．他社事例の情報収集等を行い、農薬に頼らないコース管理に向けた知識を蓄積し、以降の農薬に頼らないコース管理に向けた計画立案に役立っています。

以 上